



新たな玄関口として発展する駅

学生や市民の交通拠点となる新駅

折りしも都留文科大学開学50周年の節目の年に誕生した都留文科大学前駅は、都留市の新たな玄関口として発展していきます。

これまで谷村町駅や十日市場駅を利用していた学生たちが新駅を利用するようになり、さらに、富士急行線内を走る「フジサン特急」の停車駅が、都留市駅から新駅へと変わるなど、駅の誕生によって、人の流れが大きく様変わりしました。今後は、タクシー乗り場やバスターミナルなど、公共交通機関の基盤整備なども進められ、交通拠点としての役割を担っていきます。

駅名が表すとおり、都留文科大学へは新駅から伸びる真新しい道路で徒歩5分と、抜群のアクセスです。また、周辺には高校や文化ホール、体育館などがあり、また、駅の開設とあわせて行われた土地区画整理事業によって新たな商業ゾーンが整備されています。かつては数件の民家があるだけののどかな田園地帯だったこの付近は、大きく変貌しています。

J R中央本線大月駅から富士山麓に向かって伸びる富士急行線。その富士急行線の18番目の駅として、平成16年11月16日、「都留文科大学前駅」が開業しました。都留文科大学の近くに駅を誘致しようという構想からおよそ20年。富士急行線での新駅開業は、富士急ハイランド駅(当時)ハイランド駅(以来実に43年ぶり)のこと。また、県内でみても、昭和47年の新府駅以来、32年ぶりの出来事となります。

甲斐往来

第四回 都留文科大学前駅

シリーズ山梨の駅



contents

- 1 シリーズ山梨の駅 甲斐往来:「第4回 都留文科大学前駅」
- 2 特集 平成17年度当初予算について
- 6 特集 県立中央病院全院開院
- 12 山梨の旧道を訪ねて「南部町/西行峠・万沢宿」
- 14 甲斐のひと、インタビュー「覚 和歌子 さん」
- 16 地球と遊ぼう「Vol.4 土ってなあに？」
- 18 山梨の食材再発見 医食同源「^{たけのこ}筍」
- 20 知って役立つ暮らしの情報「紫外線対策」
- 21 やまのくに 山の花「カタクリ」



【表紙の写真】

信玄堤で有名な釜無川は、笛吹川と交わり日本三大急流といわれる富士川となる。河川法では河口から源流までを同一名称とするため、河川標識には「富士川(釜無川)」と標示されていたが、平成15年、地域住民の要望により古くからなじみのある「釜無川」に変更された。ちなみに釜無川という名称は、「滝壺(釜)の無い川」からつけられたといわれている。写真は南アルプス市と田富町の境を流れる釜無川の風景。名称を問うこともなく、今日もゆったりと流れている。